



ほくりくのさくらレポート



2016年10月17日
日本銀行金沢支店

北陸地域におけるインバウンド観光の動向と関連企業等の対応状況

1. 北陸地域におけるインバウンド観光関連需要の動向とその背景

(1) 北陸地域におけるインバウンド観光関連需要の総括判断

- ・ 北陸地域では、地元空港から台湾への直行便の増便、北陸新幹線の開業（15/3月）、クルーズ船の寄港回数の増加など、交通インフラの整備進捗に伴い、外国人観光客が増加しており、インバウンド観光関連需要が拡大している。

(2) 最近のインバウンド観光関連需要の特徴とその背景

① 国籍別にみた特徴

- ・ 当地を訪れる外国人観光客は、地元空港との直行便がある台湾などアジアを中心に増加が続いている。また、北陸新幹線の開業により、首都圏からのアクセスが大幅に改善したほか、従来より兼六園・五箇山が「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で3つ星の評価を受けている中、6月に日本海側では初めてとなる、飲食店や宿泊施設を評価する「ミシュランガイド富山・石川（金沢）2016特別版」が発売されるなど、当地に対する注目度がますます高まっており、これまでウエイトが低かった欧米の観光客も増加している。
- ・ また、北陸地域の外国人宿泊者数は、2012年以降、台湾客を中心に増加しており、外国人宿泊者数全体に占める台湾客のウエイト（2015年）は3割超と全国（18%）を大きく上回っている。
—— 高さ20mにも及ぶ「雪の大谷」を有する富山県の「立山黒部アルペンルート」は、雪の降らない台湾では非常に人気が高く、「一生に一度は訪れたい観光地」とされている。小松空港や富山空港では、こうした需要を取り込むために、台湾との定期直行便を就航・増便させてきており、台湾客の獲得に大きく寄与している。

② 財・サービス別にみた特徴

- ・ 消費財についてみると、外国人観光客の増加を受けて、伝統工芸品をはじめ各種お土産品の売上が増加している。
- ・ なお、当地を訪れる外国人観光客は台湾客が中心であり、全国に比べ、中国客による所謂「爆買い」の影響は小さい。このため、2016年入り後、新興国経済の減速、為

替円高の進行、中国政府による関税強化等もあって、一部の先からは、「中国客を対象とした高級時計、タバコ、家電製品、ベビー用オムツ等の販売が減少している」との声が聞かれるものの、売上全体に占める影響は全国対比限定的と考えられる。

- ・ サービス消費についても、公共交通機関の利用客が増加しているほか、ホテルや旅館等でも外国人宿泊客の増加から増収・増益となっている先が多くみられている。中には、現地セールスを含む台湾客の誘致に注力した結果、業況が悪化していた旅館の経営再建に成功した例もみられている。
- ・ また、最近の特徴として、訪日回数の多い外国人観光客を中心に、日本文化の体験や日本人との交流といった「体験型観光」が志向される傾向がみられており、「宿泊客に対する浴衣等のレンタルサービスが欧米客に好評」、「伝統工芸品の製造体験を目的とした外国人観光客が増加している」、「従来型の観光旅行ではなく、地元伝統行事への参加等（地蔵盆への参加、日本遺産の鯖街道を歩く等）、日本文化に直に接するニーズが高まっている」との声が聞かれている。

2. インバウンド観光関連需要の獲得・同観光振興に向けた取り組み

(1) 民間企業におけるインバウンド観光関連需要の獲得に向けた取り組み

- ・ 販売戦略面では、将来的な人口減少が見込まれる国内観光客の代替として外国人観光客の取り込みに注力する先が増加している。具体的には、観光地としての当地の魅力をPRすることを企図し、所得水準が向上しているアジア諸国の旅行会社に対して現地営業を行い、これまであまり知られていない日本の魅力（三方五湖、能登の里山里海等）をアピールすることにより団体客の獲得を図る先や、海外で開催される旅行関連イベント（博覧会等）への出店や現地旅行業者向け説明会・伝統工芸品の製造体験教室等を開催する先がみられている。また、主要観光地の飲食店やホテル等では、外国人観光客の増加に対応するために、英語メニューやムスリム観光客向けの原材料の表示を拡充する動きのほか、ホームページを多言語対応することで新たな外国人客の獲得に取り組む動きもみられている。

(2) 公的機関・経済団体等によるインバウンド観光振興に向けた取り組み

- ・ 当地は、全国を上回るペースで少子高齢化・人口減少が進行することが見込まれており、交流人口の拡大を地域経済の活性化に向けた重要施策として、富山・石川・福井県では、それぞれ外国人観光客の誘客に積極的に取り組んでいる。すなわち、県知事自らが海外の航空会社に対する直行便の増便要請や、大型コンベンションの誘致、クルーズ船の寄港誘致などのトップセールスに取り組んでいるほか、福井県では、全国の中でも逸早く県全体としてのブランド戦略を打ち出す（ブランドキーコンセプト”ZEN（禅）”）といった外国人観光客の誘客拡大を図る動き等がみられている。このほか、公的機関が主体となって民間企業向けにセミナーやモニターツアー等を開催する動きもみられている。

- ・ こうした取り組みが奏功し、最近では、「北陸を拠点として京都などの周辺地域を周遊する外国人観光客が増加している」との声も聞かれている。

3. 当地の最終需要や雇用・所得等への波及状況

- ・ 当地では、北陸新幹線開業2年目も交流人口は高水準を維持しており、ここに来て金沢を中心に、北陸のインバウンドを含む観光需要の拡大に着目したホテル・旅館のリニューアルの動きが増加する等、単に交流人口の増加により消費需要が拡大するだけでなく、各種建設投資やM&A資金の流入を誘発するといった新幹線開業の第二段階の経済効果がみられている。すなわち、金沢駅前に外資系高級ホテルの建設が計画されているほか、公共浴場で入浴する習慣のない外国人観光客向けに浴室設備（シャワールーム）を改装するといった新たな設備資金需要の喚起にも繋がっている。また、域内・域外の企業が当地の旅館を買収し、海外の富裕層も対象としたビジネスを展開する動きもみられている。
- ・ また、インバウンド需要増加の影響は当地の雇用改善にも寄与している。そうした中、外国人観光客向けサービスの向上を企図し、語学に堪能な人材を採用する動きや、一部には当地に留学していた外国人等を正社員として雇用する動きもみられている。

4. 先行きの展望

- ・ 国内では2020年の東京オリンピック開催に向けて訪日外国人数が大幅に増加することが見込まれており、これらの外国人観光客を首都圏だけでなく、如何に北陸地域に呼び込むかがポイントとなる。
- ・ 当地は、雄大な自然景観、長い歴史の中で培われた街並みや食文化、伝統工芸、芸術といった魅力の高い観光資源を擁し、当地を訪れる外国人観光客も増加傾向にあるが、現状、当地の外国人宿泊者数は全国の中でも中・下位に止まっており、更なる受入拡大の余地は大きい。
- ・ 現在、当地では官民一体となって、外国人観光客の受入環境の整備や当地の知名度向上のための情報発信など各種施策が進められており、その成果が着実にみられはじめている。こうした取り組みが結実し、更なる外国人観光客の誘客拡大、ひいては当地経済の活性化に繋がることを期待したい。

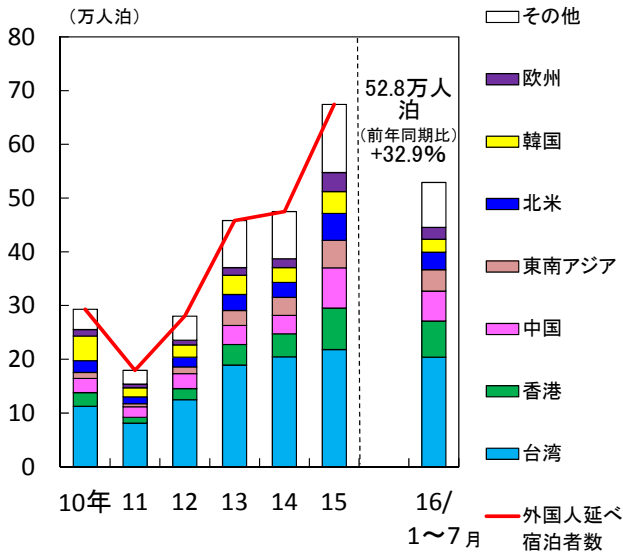
以 上

本件に関するお問い合わせは、日本銀行金沢支店営業課・広報担当（電話 076-223-9522）までお願いいたします。なお、本ペーパーは日本銀行金沢支店のホームページ（<http://www3.boj.or.jp/kanazawa/>）でもご覧いただけます。

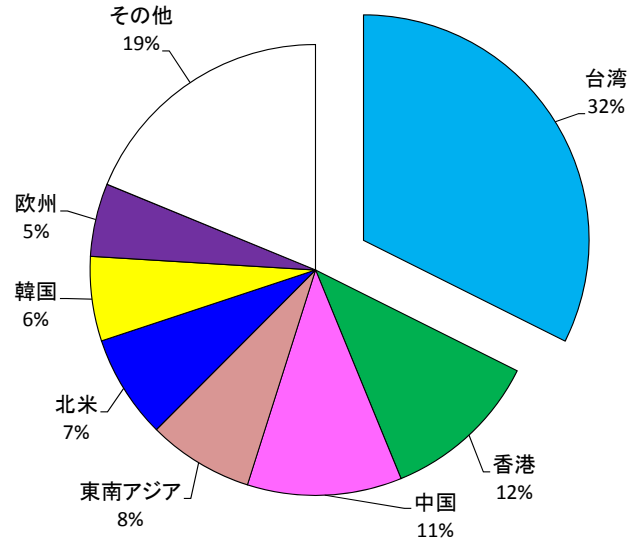
本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行金沢支店までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

(参考図表)

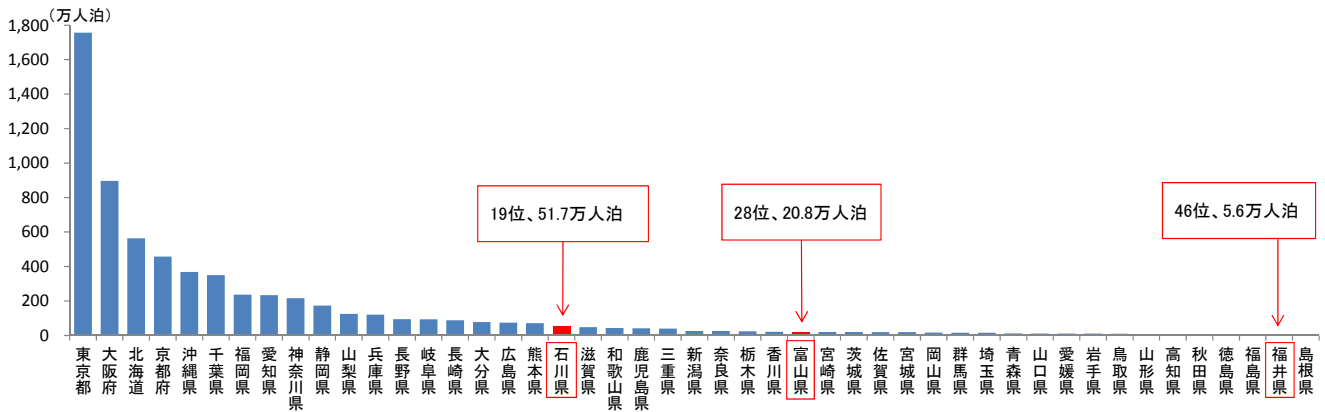
(図1) 国籍別外国人延べ宿泊者数の推移
(北陸3県)



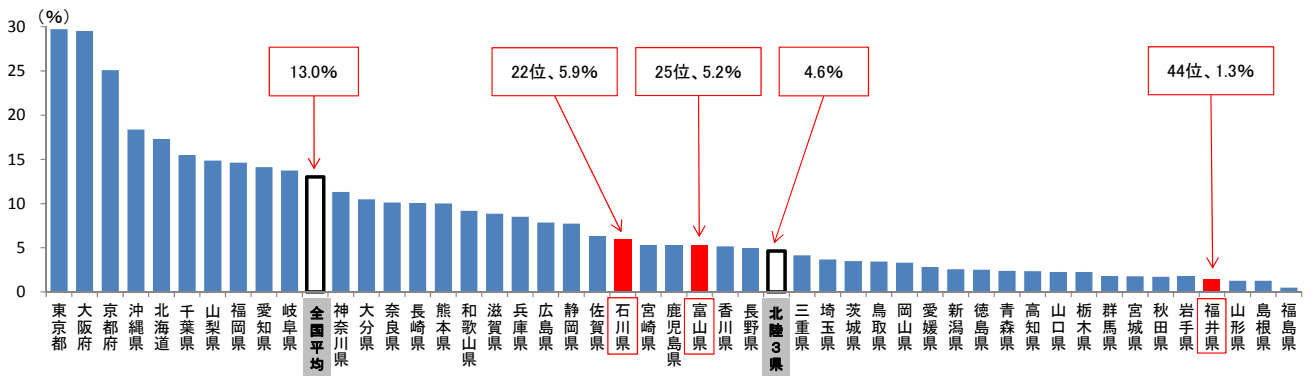
(図2) 外国人延べ宿泊者数の内訳
(2015年、北陸3県)



(図3) 外国人延べ宿泊者数(2015年、都道府県別)



(図4) 全延べ宿泊者数に占める外国人延べ宿泊者数の割合(2015年、都道府県別)



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

(図5) 北陸3県の観光振興に向けた取り組み

	観光振興プラン	期間	計数目標(外国人宿泊者数)	
			プラン策定時	目標値
富山県	新・富山県観光振興戦略プラン	15~19年度	14万人(14年)	56万人(19年)
石川県	ほっと石川観光プラン2016	16~25年度	29万人(14年)	100万人(25年)
福井県	福井県観光新戦略	15~19年度	2万人(13年)	10万人(19年)